

～行きたい、働きたい、住みたい～

しあわせ実感都市 大村

# 施政方針

2月27日に開かれた市議会定例会で、園田市長は、今年度の市政運営の基本方針を示す『施政方針説明』を発表しました。

■企画政策課（内線 226）

市長就任以来、「県内13市の中で唯一人口が増加を続けている大村市だからこそ、我々が長崎県をけん引するトップランナーである。」という気概を持って、「オール大村」のまちづくりを推進し、市内全中学校での完全給食の実施、ポータルレス大村での「発祥地ライター」の開始、子ども医療費助成事業の対象年齢の拡大、未就学児に対する現物給付の開始などに取り組んでまいりました。

これからも、「行きたい、働きたい、住みたい」しあわせ実感都市「大村」の実現に向けて取り組んでまいります。



施政方針の全文は、こちらからご覧いただけます。

## 01 人を育むまち

■長崎県立・大村市立二体型図書館と大村市歴史資料館の複合施設である「ミライオン」が10月5日に開館します。二体型図書館は、市民一人一人のさまざまな学びを支える知の拠点、未来へつながる出逢いの広場として、これまで以上に充実したサービスを提供していきます。歴史資料館は、市民の郷土学習や歴史観光の拠点として活動を充実していきます。

■保育施設は、新設などにより、本年4月1日に新たに163人分を確保しました。また、来年4月1日までにさらに待機児童の解消に向けた整備を進めていきます。

■保育士として就職した人に対する祝金の支給、市内保育施設の見学バスツアーの開催により、保育士を確保していくとともに、保育士の負担軽減による離職防止策の実施などに引き続き取り組みます。

■こどもセンター内に「大村市子育て世代包括支援センター」を開設し、これまでの取組に加え妊婦への支援を強化するとともに、関係機関との連携強化を図ります。

■今年度中に、全ての小・中学校の普通教室や一部の特別教室への空調設備の設置を完了します。

■大村小学校の普通教室棟へのエレベーター設置および普通教室棟と管理棟をつなぐ渡り廊下の設置を行い、インクルーシブ

教育の実現に向け、教育環境を整備します。

■小・中学校では、これまでの二学期制の実績を活かした新たな三学期制への移行に向けた体制を整備するとともに、「大村市教育大綱」の改訂と「第3期大村市教育振興基本計画」を策定し、更なる教育の振興に向けて準備を進めていきます。

■学校と保護者や地域住民が一体となつて、子どもたちの豊かな成長を支える「コミュニティ・スクール」を、玖島中学校をモデル校に導入します。

■教員OBや地域住民の支援・協力のもと、希望する生徒を対象とした放課後の学習支援「OMURA未来塾(仮称)」を、市内中学校1校をモデル校に実施します。

■国指定重要無形民俗文化財である「大村の郡三踊」の、ユネスコ無形文化遺産への登録に向けた支援を行います。

■建設中の新中地区公民館(仮称)は、高齢者の生きがいづくりや趣味活動の場である中地区ふれあい館と一体となり、機能が充実します。今年度末の完成を目指して整備を進めます。

■戊辰の役を由縁に秋田県仙北市と締結している姉妹都市提携は、今年40周年を迎えます。仙北市で開催される記念式典に合わせ、大村市姉妹都市親善協会が企画する市民ツアーを支援します。

## 02 健康でいきいきと暮らせるまち

■国民健康保険特定健康診査を無料化します。

■中心市街地複合ビル(愛称・プラットおおむら)に同居する大村市医師会、大村東彼歯科医師会、大村東彼薬剤師会と本市の連携を強化していきます。

■地域の実情を踏まえた「大村市自殺対策計画(仮称)」を策定します。

■バスケットボール女子日本リーグに所属する全チームが参加する「Wリーグサマーキャンプ2019」などを開催し、市民のスポーツへの関心を高め、スポーツ文化の普及や健康意識の向上を図ります。

## 03 安全・安心なまち

■関係機関・団体と連携し、実動による総合防災訓練を実施します。

■市庁舎の建て替えは、本年9月までに基本設計を策定し、実施設計に取り組みます。

■桜が原中学校付近の市道路側帯のカラー舗装や、竹松小学校裏の辻第2踏切の拡幅、通学路のカーブミラーなどの設置、白線の修復や設置を行います。

■JR竹松駅駐輪場に防犯カメラを新設します。

## 04 活力に満ちた産業のまち

■「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録や、本年11月に予定されているローマ法王来皇の好機を活かし、交流人口の拡大に取り組みます。

■本年9月に九州初となる地域活性化学会の研究会を開催し、全国に向けたシティプロモーションを図ります。

■中心市街地複合ビル(プラットおおむら)内に、創業希望者などが活用できる施設を設置を検討します。

■イチゴやトマトの多収量化設備の導入や、ミカンや水稻栽培の省力化機械の導入を支援します。また、新規就農希望者への支援や地域農業の中核となる認定農業者の育成を進めます。

■松原漁港付近の防波堤新設に向けた調査を実施します。

■大村産「青ナマコ」のブランド化に取り組みとともに、東京や関西、福岡などでの販路開拓を進めていきます。

## 05 機能的で環境と調和したまち

■九州新幹線西九州ルートへのアクセス道路や駅前広場の整備工事に取り掛かるとともに、民間事業者による新大村駅前の

開発を促し、魅力ある周辺整備を進めていきます。

■官民で協力し、本年3月末に策定した「大村市新幹線開業アクションプラン」を基に、全市を挙げて開業効果を最大限発揮できるまちづくりを推進していきます。

■今後も引き続き、国道34号の拡幅事業の早期完成に向けて、整備を促進します。

■新たな航空路線の開設など長崎空港のさらなる機能強化や、利用者の利便性向上が図られるよう、コンセッション方式による空港経営改革や運用時間の24時間化に向けた取組を進めていきます。

■地域の経済活動や市民生活の利便性向上に不可欠な都市計画道路の見直し作業に着手します。

■黒丸町に整備している市総合運動公園は、人工芝テニスコート6面を先行して整備し、来年春の供用開始を目指します。

■野岳湖公園は、周辺の自然環境を活かし、市民はもとより全国から誘客が可能な体験型・滞在型の魅力ある観光拠点として整備を検討していきます。

■高速大村インターのバス停留所付近に、新たな駐車場の整備を進めます。

■バス路線網の再編に向けた「大村市地域公共交通再編実施計画」を策定します。

■三浦・鈴田地区で、乗り合いタクシーの実証運行に取り組みます。

■老朽化した水道管の更新を進め、有収率や耐震化の向上を図ります。

■汚水処理普及率100%を目指し、松原

地区のほか公共下水道の整備区域の拡大に取り組みとともに、農業集落排水施設の公共下水道への統合に着手します。

■他市に先駆けて取り組んでいる汚水処理の高度処理化に向けた増設工事が完了し、供用開始します。

■最先端技術を活用し、より良い未来の社会、生活を実現する「スマートシティ」や世界最先端都市を先行実施する「スーパージティ」構想の実現可能性を研究します。

## 06 持続可能な行財政運営と市民協働の推進

■「大村市財政運営基本方針」に基づき、安定した財源の確保に努めるとともに、歳出の抑制と適正化を図ります。

■中期財政見通しを公表し、今後の地方債残高や基金残高の推移など財政指標を明らかにし、引き続き健全で持続可能な財政運営に努めます。

■本年8月に本場ナイターレース初となるSGレース「ポートルレースメモリアル」を開催します。また、場外発売場の開設にも積極的に取り組み今年度中に2力所を開設し、全国最多の15力所とします。

■人口減少が進む松原地区を、市内の周辺地区活性化モデル地区として位置付け、交流人口の増から定住人口の増を目指したまちづくり計画を、地域住民と共に策定します。